

目次

- ア 学則変更（収容定員変更）の内容 . . . p. 1
- イ 学則変更（収容定員変更）の必要性 . . . p. 1
- ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容 . . . p. 2

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

平成 29 年 4 月より食物栄養学科の入学定員を 140 人から 120 人に変更し、完成年度の収容定員を 280 人から 240 人に変更する。

短期大学全体としては、食物栄養学科の変更分だけが削減となり、詳細が下表のとおりとなる。

入学定員および収容定員

学科名	現 行		変 更 後		備 考
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	
総合生活学科	120 人	240 人	120 人	240 人	
食物栄養学科	140 人	280 人	120 人	240 人	
幼児教育学科	100 人	200 人	100 人	200 人	
合 計	360 人	720 人	340 人	680 人	入学定員 20 人減 収容定員 40 人減

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

食物栄養学科では、直近 3 年間の定員が未充足となっている。その要因として 18 歳人口の減少、短期大学の入学志願者動向、並びに家政系学科の短期大学志願者の減少がある（表 1）。これらの状況を踏まえ安定的に定員を充足できるよう、平成 29 年度より本学科の入学定員及び収容定員を減じて適正規模に変更する。

本学科の直近 5 年間の平均志願者数は 466 人であるが、年々志願者数が減少し、平成 28 年度の志願者数は平成 24 年度の志願者数と比較すると半数以下となる 276 人となり、入学者数は 100 人を下回る結果となっている（表 2）。平成 28 年度入学者数が急激に減少しているものの、直近 5 年間の平均入学者数は 132 人であり、直近 3 年間の平均入学者数でも 118 人であることから鑑みて、入学定員は 120 人が適正であると考えため 140 人から 20 人減じた 120 人とし、収容定員は 280 人から 40 人減じた 240 人とする。

■表 1 短期大学全体入学志願者数／家政系学科入学志願者数推移 【単位：人】

年度（平成）	18 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
全体	166,363	110,796	104,267	106,354	100,878	96,825
家政系	33,932	20,858	19,868	20,569	18,934	18,217

文部科学省「学校基本調査」より抜粋

■表 2 食物栄養学科の入学人数等推移

【単位：人】

年度（平成）	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	平均
志願者数	595	496	519	442	276	466
入学定員	140	140	140	140	140	140
入学人数	160	147	121	135	97	132
入学定員充足率	114%	105%	86%	96%	69%	94%

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

(7) 教育課程の変更内容について

本学科は栄養と食のスペシャリストをコンセプトに人びとの健康を「食」の面からサポートする人材の育成を目的としている。本学科が設定している栄養士資格に関する科目、栄養士以外の資格に関する科目、選択科目とする教育課程においては、定員減によりクラス数を4クラスから3クラスに変更し、非常勤講師に依頼していた科目を専任教員が担当することで、科目間の連携をより強化し教育効果をあげることができる。また、選択科目に「栄養士へのアプローチ」を新設する予定であり、栄養士業務への理解を深め、将来の進路選択につながるよう教育の充実を図るなど、変更前と同等以上の内容を担保する。

(4) 教育方法及び履修指導方法の変更内容について

今回の学則変更（収容定員変更）に伴う変更はない。従来の教員組織は入学定員140人の規模で編成しているが、教員組織の変更は行わず、講義・演習・実験・実習・実技など科目の特性に応じた更に充実した教育や、個々の学生に対応した丁寧な履修指導を行う。本学科はクラス担任制を設けており、各クラスに担任及び副担任を配置することで、きめ細やかな学修支援にあたっている。この体制を維持することにより、変更前と同等以上の内容を担保する。

(5) 教員組織の変更内容について

今回の学則変更（収容定員変更）に伴う変更はない。従来の教員組織は入学定員140人の規模で編成しているが、入学定員変更後も、教員組織を入学定員140人の規模を維持するため、変更前より同等以上の内容を担保する。

(1) 短大全体の施設・設備の変更内容について

本学科の施設・設備については、現在使用している部分を継続する。クラス数は、

現行の4クラスから3クラスでの運用とし、1クラス当たりの人数を40人として運用する。40人での運用は、施設として充分対応できるものであり、ゆとりある施設・設備で、変更前より同等以上となる。

上述のとおり、変更前と同等以上の教育の質を担保し、本学科の教育目標に則り、学科教育の更なる充実を図る。